

## 目 次

巻頭言：世界的規模の民主主義のために————庄司 興吉 i

### 序 戦争と平和を問いなおす視座————君島 東彦 1

- 1 協同組合と平和 (2)
- 2 アジア太平洋戦争再考 (4)
- 3 ミリタリズムとの格闘 (6)

### 1 大学生協はなぜ平和をめざすのか————横山 治生 12

- 1 はじめに (12)
- 2 なぜ生協が平和の取り組みを行うのか (12)
- 3 京都の戦跡を訪ねる取り組み——ピースナウ舞鶴 (15)
- 4 戦争の事実を知り、平和への道筋を見出すために (25)

### 2 賀川豊彦の軌跡————名和 又介 27

——協同組合から平和をつくる道筋

- 1 はじめに (27)
- 2 幼少年時代 (27)
- 3 青年時代 (28)
- 4 飛躍の時代 (32)
- 5 運動の時代 (33)
- 6 関東大震災 (36)
- 7 戦後の時代 (38)
- 8 平和運動 (38)

### 3 文化人のアジア太平洋戦争————高岡 裕之 41

——軍隊と文化人の関係を中心に

- 1 はじめに——戦争と文化 (41)
- 2 日中戦争と文化人 (42)
- 3 アジア太平洋戦争と文化人 (47)
- 4 おわりに (51)

### 4 詩人・石原吉郎を読む————畑谷 史代 55

——シベリア抑留者がとらえた戦争と人間

- 1 はじめに——なぜ「石原吉郎」なのか (55)
- 2 シベリア抑留 (56)
- 3 石原吉郎と抑留——敗戦後の「戦争」 (58)
- 4 帰国——戦後社会との断絶 (60)
- 5 抑留体験の核心 (62)

- 6 晩年——心のなかで続く「戦争」(67) 7 おわりに——善なる魂(68)

5 暴力と戦争のトラウマに向き合う心理学——村本 邦子 72

- 1 はじめに(72) 2 HWH(Healing the Wounds of History、歴史の傷を癒す)との出会い(73) 3 HWHの理論と実践(76)  
4 今後に向けて(82)

6 建築からみた戦争と平和——布野 修司 85

- 1 はじめに——建築と戦争(85) 2 日本の近代建築と帝冠併合様式(87) 3 丹下健三と広島平和記念館(90)  
4 白井晟一と原爆堂計画(92) 5 おわりに(95)

7 「沖縄問題」とは何か——松島 泰勝 98

——琉球の脱植民地化、脱軍事化への道

- 1 植民地支配下にある琉球(99) 2 独立の主体としての琉球人(100) 3 琉球独立に関する一問一答(102) 4 ために代えて——日本人に求めること(111)

8 戦争の倫理学——柳澤 有吾 114

——「テロとの戦い」と倫理

- 1 はじめに(114) 2 「わたしたちは何のために戦っているのか——アメリカからの手紙」(114) 3 乗っ取られた旅客機は撃ち落とされても仕方がないのか(118) 4 結びにかえて——法の限界で(125)

9 3・11後の平和責任——高橋 眞司 128

——長崎で考える

- 1 平和責任の提起と定義——新ミレニアムにのぞんで(128)  
2 核時代の暴力性(その1)(131) 3 核時代の暴力性(その2)(135) 4 核時代の平和責任——とくに3・11後の平和責任(137)

## 10 安全保障の神話からケアの倫理へ —— 岡野 八代 141

——他者に依存する自己

- 1 〈わたしたち〉の戦争観と現在の戦争 (141)
- 2 西洋政治思想における安全保障 (142)
- 3 安全保障神話 (147)
- 4 他者に依存する存在からの出発 (150)

## 11 メディアは平和をつくれるか —— 岡本 厚 156

- 1 メディア (媒体) とは何か、その役割と責任 (156)
- 2 戦争とメディア (158)
- 3 メディアは平和をつくれるか (166)

## 12 六面体としての憲法9条 —— 君島 東彦 170

——脱神話化と再構築

- 1 ワシントンから9条を見る (170)
- 2 大日本帝国から9条を見る (172)
- 3 日本の民衆から9条を見る (175)
- 4 沖縄から9条を見る (177)
- 5 東アジアから9条を見る (179)
- 6 世界の民衆から9条を見る (181)

あとがき

索引